

研究授業協議会（情報・国語）議事録

日時 令和2年 11月18日（水）15:45～16:30

協議テーマ

「ICT、BYOD を利活用し、協働学習を通して、主体的に課題を発見し解決する力を育成する授業の実践」

①自己紹介

②授業者から

授業者A：コロナ禍で、同じメンバーで長時間活動できない状況の中での協働学習の難しさを感じた。

授業者B：エクセルの使用の際、ただグラフを作るのではなく、どのようにそれを活用するかに力点を置いた授業を行った。

仮説を立てる→検証（グラフつくり）データは総合センターからもらったものを使用
→仮説は正しかったかの結論→プレゼンテーション

③質問・感想・意見

感想

教諭A：来年度に向けて、ミニプロジェクトの活用は参考になった。

生徒同士の人間関係が良好なことが授業を通して分かった。

教諭B：ロイロノートを使った授業は、展開がはやい。

教諭C：（国語）先進的な授業であった。

（情報）興味深い内容であった。

質問

質 教諭A：次はミニプロジェクトをどういうことに使おうと思っているか。（情報）

答 授業者B：パワポで都道府県の紹介をやってみたい。修学旅行の下準備や総合で使えると思う。

質 教諭D：ロイロノートを毎回の授業で使っているが、シンキングツールをまだうまく使えていないので、もっとうまく使える実践例があれば、教えてほしい。

答 授業者A：生徒にシンキングツールを選ばせたことがあり、効果があった。

今後生徒自身にシンキングツールを作らせることもひとつの手段だと思う。

④ ICT を使って難しかったこと・うまくいったこと

授業者A：紙に書いて読むことも大切にしていきたい。考えをまとめのにはICTは有効だが、限界も感じる。ICTはすべてを補えるものではない。

授業者B：まったく回線がつながらないなど、いろいろな失敗を5年間積み重ねてきた。
ロイロよりGsuiteの方が使い勝手がいいと感じている。

⑤教員E 生徒は携帯などうまく使いこなしているが、キーボード入力の指導の必要性を感じている。